

他者理解を学んでいます。寄り添うとは何か？



6/18 発達障害について学ぶワークショップにて。

6月18日に発達障害についてワークショップを行いました。さらに25日には「認知症サポーター」の講義を受けました。どちらもまずは講義を受け、さらにワークショップや寸劇を行い、「実践知」へ発展させました。ある生徒が「自分が理解できる言葉を相手も理解できるとは限らない。一人一人受け取り方は違うとわかった。また伝えることは、思いをぶつけるだけでは不十分で、これは特性の有無に関係なく、誰にでも起こるものだと思う。」と書いてくれた。「発達障害」と「認知症」という別のトピックを学びつつ、多くの生徒が共通する学びを発見し、「相手を想像する力」や「他者から自分を観る力」が身につけていると感じました。**寄り添うって何だろう？**今後も学んで行こう！！

AIを使い、「人」を学んでいます。

3年生は生成AIを活用し、命について学び、考える授業に挑戦しました。テーマは「命の選択は誰のものか—出生前診断(NIPT)から考える—」です。本格的に生成AIで思考補助を行うのは初の取り組みでした。まず自分でAIを使ってNIPTの仕組み、特徴、限界などを調べ、その後、賛成・反対の意見や根拠、出典について検証しました。さらに、障害のある本人や家族、医師、遺伝カウンセラーなど多様な立場から問題を捉え、グループ討議や発表を通して考えを深めました。授業の最初は「先に障害や病気が分かるので安心」と出生前診断に対して、賛成意見が多数でした。しかし、授業後は「支援制度の不足」「命の選別につながる可能性」「障害者への偏見、差別」など多面的な意見が増えました。命の選択は誰のものでしょうか。

特に「なぜ中絶を選ぶ人が多いのか」という問いの答えでは個人の問題だけではなく、「福祉制度や相談体制、社会の偏見」という社会に注目する人が多かったのが印象的です。またAIは論点の整理には有効である一方、当事者の葛藤や生活の現実は十分に伝えられないことにも気が付くことができました。今回の授業を通して、生徒達は「出生前診断の是非」だけではなく、「命の価値」「自由な選択」「社会支援のあり方」という本質について考えてくれました。今後もさらに学んでいきましょう！

担当者のつぶやき

【他人を通して自分を観る。他人は自分を映す鏡】

一学期もあと少しですがご苦労様でした。**色々**な事があったと思います。他者と関わり、一緒に何かすると、どうしても**色々**あります。「わかって貰えない」「上手く伝わらない」などまさに「色々」あったのではないのでしょうか？でもこの「色々」をぜひ経験してほしいのです。世の中には、「自分が求めている100点の他人」は存在しません。全員が違っていて普通です。だから違いから生まれる「色々」を経験して、それを越えていく練習を「学校」でしています。

【他人を通して自分を観る。他人は自分を映す鏡】

類型の1年生～3年生はそれぞれの場所で、頑張ってくれています。他者との関わりの中や対人関係で上手くいかない時もあるでしょう。でも対人関係でしか見つからない自分もいる。だから**他人は自分を映す鏡**です。熱い熱い夏がやってきます。多くの活動があるし、3年生は進路と自分へ向き合う時期。色々を楽しんで！